



柔道部

第59回近畿高等学校柔道新人大会の個人試合が1月27日(土)に県立武道館で行われました。

本校からは、60kg級に頭徳大晴(2年明石市立望海中)、73kg級に高橋寛多(2年小野市立小野中)、90kg級に柴原海斗(2年たつの市立龍野西中)、100kg超級には、大原涼馬(2年明石市立望海中)と小西貴大(2年同野々池中)の5名が出場しました。



頭徳は欠場し、高橋が3位、柴原がベスト8、大原が2回戦、小西が1回戦で敗退という結果でした。

翌週の2月3日(土)に同大会の男子団体試合が、尼崎のベイコム総合体育館で行われました。この試合は、勝ち抜き試合のトーナメント戦で行われました。

1回戦は、京都府の東山高校と対戦し、2人残して勝ちました。

続く2回戦は、奈良県の天理高校と対戦し、副将戦まですべて引分けとなり、大将戦で負けて一人残して敗れました。

その後天理高校の大将は、決勝戦に先鋒で出場し、相手チーム全員を一人で倒す五人抜きを果たしました。

本校は優勝校と一番いい勝負をして、接戦に持ち込んだのですが、残念な結果になってしまいました。

2月11日(日)建国記念日に兵庫柔道グランプリが、グリーンアリーナ神戸で行われました。

この大会は、小学生は団体戦で、中学生、高校生、一般は体重無差別の個人戦で争われ、県の頂点を決める大会でした。

本校からは3名出場予定でしたが、近畿大会で負

傷した73kg級の高橋寛多は、棄権しました。90kg級の柴原海斗は1回戦を勝ち、2回戦で優勝者に敗れベスト16になりました。100kg超級の小西貴大は、準決勝まで進み、同じく優勝者に敗れ惜しくも3位となりました。

卒業式



第70回卒業証書授与式が、2月16日(金)に執り行われました。

厳粛な雰囲気の中、総勢294名の卒業生が巣立っていきましました。

卒業生代表の答辞は、大西由姫(高砂市立松陽中)が述べました。女子生徒が答辞を述べたのは、本校で初めてのことです。

また、3年間無欠席の皆勤賞や精勤賞を受賞した生徒の数は102名にも上り、卒業生総数の35%となりました。

式の最後に、声高らかに校歌を斉唱する卒業生の姿を合わせてみるにつけ、3年間の素晴らしい努力の跡や、逞しく成長した姿を誇らしく感じました。

卒業証書授与総代 山本凌平(播磨町立播磨南中)、日本私立中学高等学校連合会賞 梅田青祈(神戸市立兵庫中)、兵庫県私立中学高等学校連合会賞 河田将欣(同舞子中)、皆勤賞代表 奈木野聖也(西宮市立甲陵中)、精勤賞代表 森田晃斗(神戸市立長坂中)、クラブ功労賞代表 岩野光貴(赤穂市立赤穂東中)、金星会(同窓会)賞 阪井達朗(神戸市立太山寺中)、育友会賞 戸田将太(同井吹台中)、阪本捷仁(尼崎市立塚口中)

ちょっと一言「ブレザー・スーツ・ジャケット」は、どう違うのか。中世の男性用胴着であった「ジャック」が、「ジャケット」の語源とされています。袖のついている上着すべてを「ジャケット」と呼び、スーツ、ブレザー、ジャンパーやコートも含まれます。近年は「スーツ」は上下セットのものをいい、上着だけのものを「ブレザー」と「ジャケット」といいます。「ブレザー」は金属製のボタンと胸にエンブレムがつき、制服やユニフォームとして、またカジュアルウエアとして着られています。「ブレザー」以外のものを「ジャケット」と呼び、フォーマル度は、ブレザーより低く位置づけられています。フォーマルには、ビジネスはもちろん、セレモニー(儀式)、冠婚葬祭が含まれます。似て非なるものを、きちんと使い分けなくてはいいけません。